

第2章 全体構想

1. 都市づくりの考え方

本計画では、本町の最上位計画である精華町第6次総合計画で掲げる基本理念を共有し、学研都市精華町の未来を見据えた都市づくりを進めます。

● 基本理念1： 緑豊かな調和のとれたまちづくり

先人から受け継いだ緑豊かな郷土と文化を愛する心を育み、今後も、開発と保全、都市と農村の調和のとれたまちづくりをめざします。

● 基本理念2： 将来にわたり高度な都市運営を支える自立のまちづくり

学研都市の中心都市として、高次都市機能や質の高い行政サービスを持続的・安定的に提供できるよう、計画的な産業集積と人口定着による自立のまちづくりをめざします。

● 基本理念3： 子どもたちが夢をもち輝けるまちづくり

昭和43年（1968年）に制定された「こどもを守る町」宣言のもと、次代の担い手である子どもたちが未来に向け夢をもち、一人ひとりが輝けるよう、愛されて健全に育まれるまちづくりをめざします。

● 基本理念4： 誰もが健やかに暮らせる安全・安心のまちづくり

一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組む元気で健やかなまちづくりをめざします。また、基地を抱えるまちとして、地域防災力を高め、安全・安心なまちづくりをめざします。

● 基本理念5： 人と人とのつながりを大切にするまちづくり

古くから高い住民自治意識に支えられたまちとして、今後も多様なコミュニティ活動を促進し、人と人とのつながりを大切にするまちづくりをめざします。

(1) 都市づくりの目指すべき将来像

本町の基本理念を踏まえ、都市づくりの分野において目指すべき将来像を以下に定めます。

まちの魅力を未来に紡ぐ 選ばれる学研都市 精華町

「まちの魅力を未来に紡ぐ」とは・・・

万葉の時代からの歴史を持つ本町は、近年、学研都市の中心地として大きく発展を遂げてきました。また、学研都市建設をバネとし、旧市街地でも適切な都市基盤整備を進めることで、新旧格差のない都市づくりに取り組んできました。その結果形成されてきた、豊かな自然や歴史と調和した美しい街並みなどの多様な地域資源が共生した都市の姿については、住民の多くが満足しており、今後も引き続き住み続けたいと考えられていることがアンケート調査等から明らかになっています。

一方で、全国的な少子高齢化の進行や激甚化・頻発化する自然災害は、本町の都市づくりを考える上で大きな影響を与えています。学研都市開発に伴って整備された新市街地でも、まちびらきからおおよそ30年が経過し、世代交代の時期が迫る中、新旧市街地の両方において、長期的な都市の空洞化が懸念される状況です。

これらを踏まえ、これまでから培ってきた本町の魅力を未来に向けて守り、継承するとともに、安全で快適な環境の整備を進めることで、住民の「これからも住み続けたい」という想いに応え、活気あふれる持続可能な魅力ある都市づくりを目指します。

「選ばれる学研都市」とは・・・

学研都市の建設に伴って整備された、本町の高い住民満足度を下支えしている高度な都市基盤施設を引き続き維持していくためには、強固な財政的基盤が必要となります。

本町が引き続き発展を目指すためには、町内のみならず、町外の方からも「選ばれる都市」である必要があります。これは、特に子育て世代を中心とした住民だけでなく、雇用やまちづくりの担い手ともなる企業（研究所）も含まれます。

このため、町外から新たに訪れる住民や企業に選ばれる、発展し続ける都市づくりを目指します。

(2) 基本方針

基本方針 1：【活気あふれる学研都市精華町】

関西文化学術研究都市の中心地として、文化・学術・研究を発信し続けるとともに、地域の経済成長をけん引する付加価値の高い産業が発展した“活気あふれる学研都市精華町”をつくる

基本方針 2：【コンパクト＋ネットワーク型都市】

町の中心地や駅周辺等に都市生活の基盤となる施設を重点的に配置し、それらが公共交通をはじめとした利便性の高いネットワークで結ばれた“コンパクト＋ネットワーク型都市”をつくる

基本方針 3：【安心して住み続けられる都市】

豊かな自然や歴史と調和した美しい街並みなどの多様な地域資源を活かしつつ、これまで整備されてきた都市基盤施設の適切な維持・管理、更なる整備の推進により、持続的かつ質の高い行政サービスに支えられた“安心して住み続けられる都市”をつくる

基本方針 4：【強くしなやかな都市】

激甚化・頻発化する自然災害から人命を守るためのソフト・ハード両面での対策による強い都市基盤を整備し“強くしなやかな都市”をつくる

(3) 目標人口

本町の国勢調査人口は、平成 27 年（2015 年）で 36,376 人、令和 2 年（2020 年）では 36,198 人となっています。将来人口については、令和 5 年（2023 年）度に策定した精華町第 6 次総合計画では令和 14 年（2032 年）度末の将来人口を 39,000 人と定めている一方、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計では減少が続く見通しとなっています。

ただし、第 6 次総合計画の人口推計では、同研究所の人口推計に加え、本町の特殊事情として、今後 10 年間に整備・事業化が見込まれる土地区画整理事業等の開発地区における流入人口を加味しており、第 6 次総合計画策定時から事業の進捗に差は生じているものの、今後の見通しについても大きな変更は生じていないことから、第 6 次総合計画における将来人口 39,000 人を、引き続き本計画における目標人口として定めることとします。

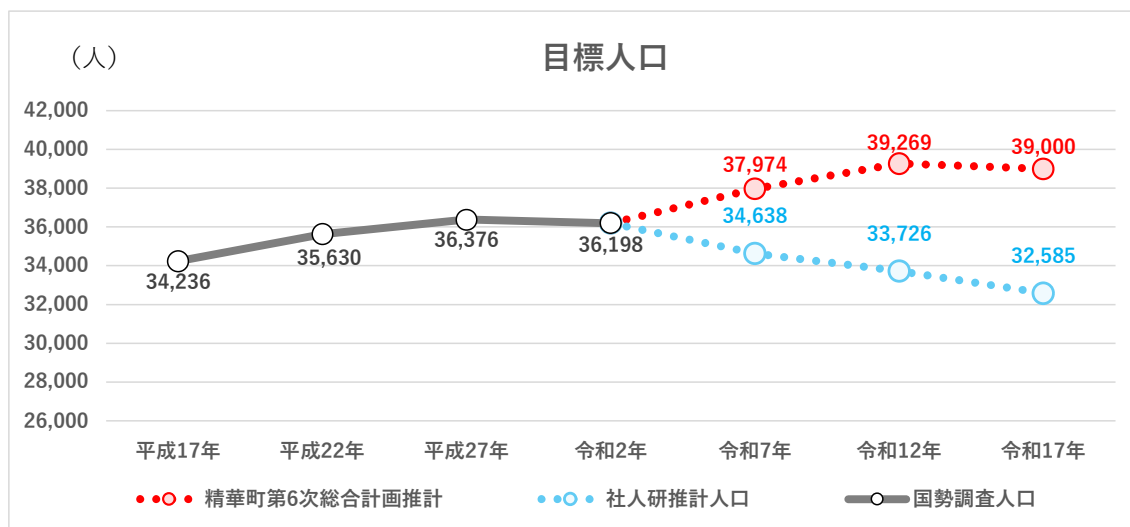


図 目標人口



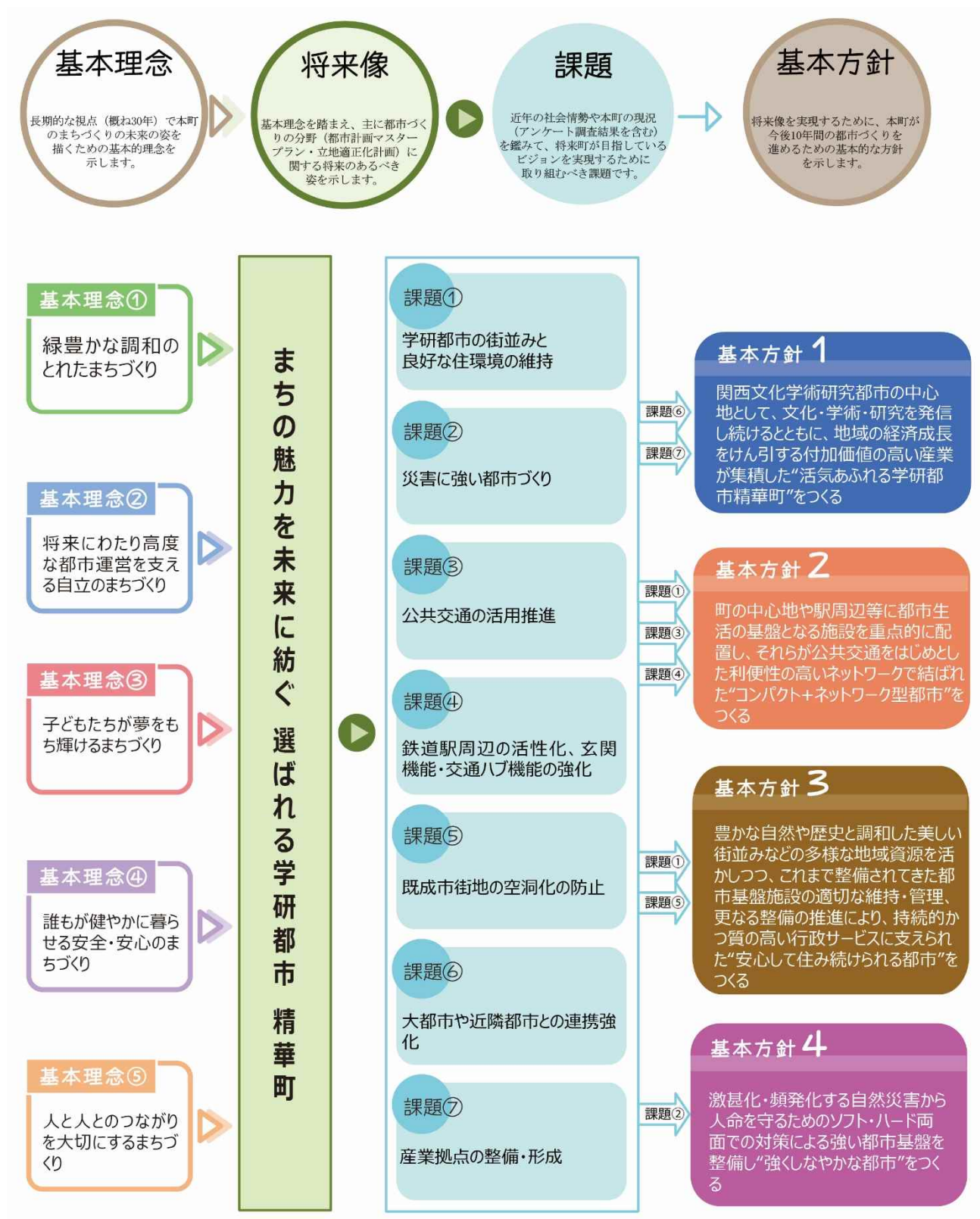


図 体系図

(4) 第6次総合計画における都市構造

第6次総合計画では、各拠点および軸における位置づけと方向性を示しています。

表 拠点の方向性

拠点	概要	
まちの拠点	位置づけ	JR 祝園駅および近鉄新祝園駅周辺
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・町の中心的な都市機能の充実 ・学研精華・西木津地区の玄関口としての役割強化
学研の拠点	位置づけ	学研精華・西木津地区センターゾーン
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市機能の集積 ・研究成果を新産業創出につなげる機能の充実 ・広域的な集客力のある商業機能の充実
地域の拠点	位置づけ	狛田駅周辺（北部拠点）及び山田川駅周辺（南部拠点）
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・商業機能の強化など生活利便性の向上
産業集積の拠点	位置づけ	学研狛田地区
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「川上から川下まで」幅広い産業を集積 ・産業集積拠点にふさわしいアメニティを有する都市機能の充実

表 軸の方向性

軸	概要	
都市軸	位置づけ	精華大通りから山手幹線、下狛駅前線を通り、「学研の拠点」「まちの拠点」、「北部拠点」、「産業集積の拠点」を結ぶ軸
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道に多様な高次都市機能の集積 ・学研都市の中心都市にふさわしい都市景観の形成
地域連携軸	位置づけ	（府道）生駒精華線、（府道）奈良精華線、（府道）枚方山城線、（府道）八幡木津線（山手幹線）
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学研都市クラスター※間や隣接市との連携強化
広域連携軸	位置づけ	京奈和自動車道、国道 163 号、各鉄道
	方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市や新名神高速道路、関西国際空港や舞鶴港との連携強化 ・京阪奈新線新祝園ルート延伸に向けた取り組み ・JR 学研都市線の複線化・増便に向けた取り組み

※学研都市クラスター・・京都府、大阪府、奈良県の3府県8市町にまたがる京阪奈丘陵にブドウの房のように分散配置された12の文化学術研究地区

◆都市構造図

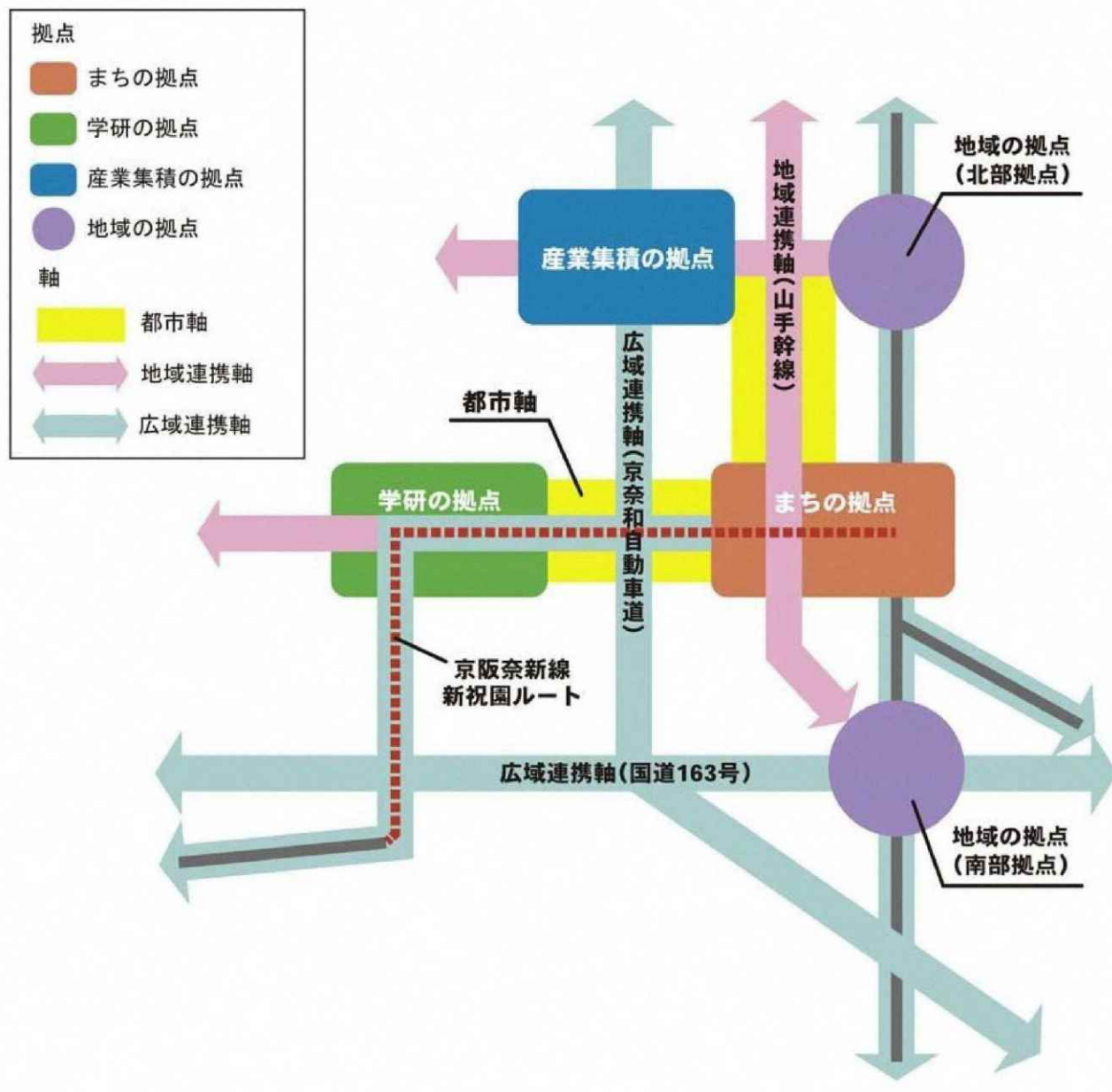


図 都市構造図

出典：精華町第6次総合計画（令和5年（2023年）3月）

(5) 都市の将来像

精華町第 6 次総合計画で示された都市構造を踏まえ、持続可能な未来都市を構築するための中心になる「エリア」と拠点間や近隣市町との効果的な連携を図る「ネットワーク」により、未来都市のイメージを以下のとおり設定します。

① エリア

表 エリア一覧

第 6 次総合計画 の位置付け(拠点)	エリア	概要	
まちの拠点	中心的エリア	位置づけ	新祝園駅および祝園駅周辺から役場までの地域
		役割	学研精華・西木津地区だけでなく、学研都市全体の玄関口としての役割を担います。
		展望	本町の都市機能の中心的エリアとして、交通、商業、金融、医療などを徒歩圏内に集積を図ります。
学研の拠点	文化学術研究 エリア	位置づけ	精華大通りを中心とした学研の拠点全域
		役割	最先端の技術を持つ企業・研究所・文化施設等が集積した学研都市全体の中心地としての役割を担います。
		展望	学術研究や文化の発信を継続するとともに、研究成果から新産業を創出することを目指します。 また、センターゾーンには広域的な集客力のあ る商業施設を配置し、周辺地域も含めた交流の中心地となることを目指します。
地域の拠点	地域拠点エリア	位置づけ	下狛・狛田駅及び山田川駅の周辺
		役割	北部地域及び南部地域の玄関口として、人の往 来の結節点になるとともに、日常的な買い物施設 や診療所等を重点的に配置し、地域住民の生活環 境を支える基盤としての役割を担います。
		展望	各地域の特色を活かした駅前空間の整備を図る とともに、地域住民が日常生活を送る上で必要と なる施設の維持・集積により、徒歩・公共交通でも 住みやすい都市づくりを目指します。
産業集積の拠点	研究開発型産業 エリア	位置づけ	学研狛田東および狛田西地区
		役割	学研都市の研究成果と市場経済を繋げる役割を 担います。
		展望	学研都市の研究成果を活用した生産機能を有す る施設の集積を目指します。
	教育研究エリア	位置づけ	京都府立大学精華キャンパス
		役割	本町唯一の高等教育研究機関として、文化学術 研究エリアと研究開発型産業エリアを繋げる役割 を担います。
		展望	大学キャンパスの整備を図るとともに、そこに 通う学生を中心とした北部地域の活性化を目指し ます。

② ネットワーク

表 ネットワーク一覧

第6次総合計画 の位置付け(軸)	ネットワーク	概要	
都市軸	都市基幹ネットワーク	位置づけ	文化学術研究エリアおよび研究開発型産業エリアと中心的エリアを繋げるネットワーク
		役割	学研都市の中心地として、ヒト・モノ・情報が行き交う都市構造の中核を担います。
		展望	本町の学研区域全域において、企業の土地利用が活発に展開されるよう、円滑なネットワークを実現します。また、長期的には沿道において今後市街化への編入を含めた市街地の形成も視野に検討を進めます。
地域連携軸（一部位置づけの無い箇所を含む）	公共交通ネットワーク	位置づけ	1日あたり30本以上の発着があるバス路線
		役割	計画的に開発された住宅地と各エリアを結ぶ役割を担います。
		展望	日常生活に資する施設が集積したエリアを結ぶなど、利便性の高いまちの形成ができるよう、効果的かつ効率的で持続性が高い公共交通体系の構築をめざします。
	日常生活ネットワーク	位置づけ	幹線道路および補助幹線道路の一部
		役割	町内の各エリアおよび隣接自治体を結ぶための主要な交通路線としての役割を担います。
		展望	町内の生活利便施設等が集積する各エリアおよび隣接自治体への円滑な移動環境を構築できるよう、安全に配慮した道路整備を目指します。
広域連携軸	広域ネットワーク	位置づけ	京奈和自動車道、国道163号 近鉄京都線・けいはんな線、JR学研都市線
		役割	広域交通網として、京都市や大阪市、奈良市などの大都市や国土軸等と接続する役割を担います。
		展望	自動車道・鉄道の両者における大都市・国土軸との連携強化をめざします。

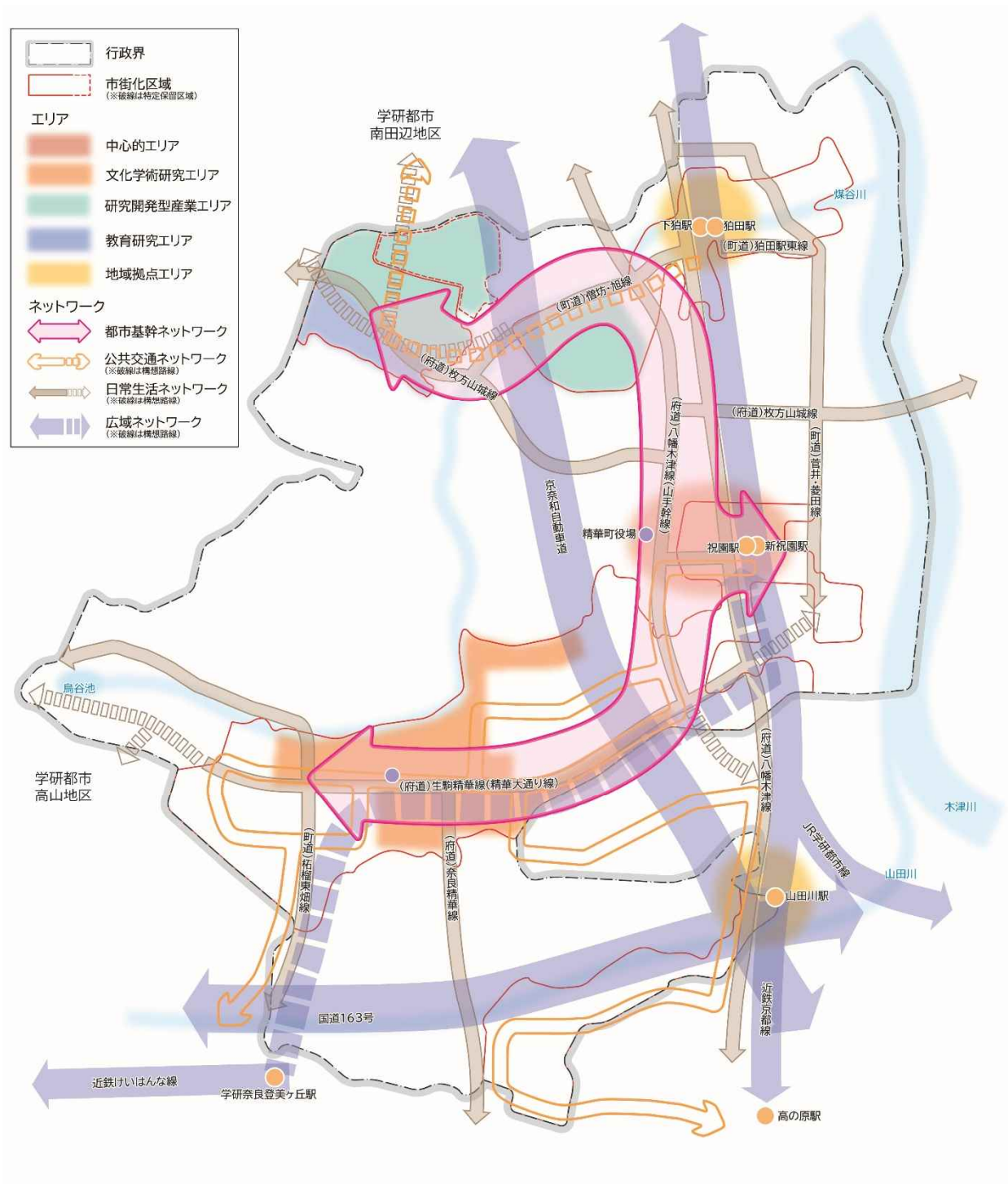


図 都市の将来像のイメージ図